



# 音楽のよろこび

2023年 6月26日 No.50  
 発行文責 担当事務局  
 田中正恭 田村乃里子

梅雨です。月はじめにはもう台風が…暑い夏の到来もまじか。どうぞ皆さま、楽しい音楽で日々お元気で！！

さて、今回の「チェロ」講師の渡邊正和さんは、これまでも本講座に何回もおいでいただいています。以前からの受講者の方は、おなじみかも。私が思い出すのは、本講座のはじまりの2017年4月、第一回（チェロ&ピアノ、弦楽四重奏）の際の、文化芸術会館における、圧巻の「演奏と語り」です。それはとても素晴らしいものでしたので、私、田中の責任で「ノート」を作らせていただき、皆様に翌月お渡ししたものでした。今日は、それをもう一度「資料」として配らせていただきますので、ご一読いただければと思います。そして、今日の演奏とお話をたっぷり味わっていただけたらと思います。

そして、今日のプログラムは、「コンチェルトの世界」です。これはすごい!!!実は以前、この講座に渡邊さんが来られ、リハーサルが終わった後、楽しそうにハイドンのコンチェルトの冒頭を弾いておられました。次回来られた時は、コンチェルト特集がいいですねえ……等お話した記憶があります。今日、実現いたしました。ワクワクして聴きましょう。ピアニストは、小林千恵さんです。



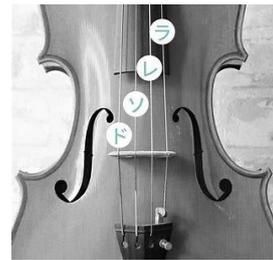
## ～ チェロについてちょっと予習 ～

### ★チェロの調弦（ドソレラ）

チェロは、ヴァイオリン属の弦楽器の一種。オーケストラによる合奏や、弦楽四重奏、弦楽五重奏といった重奏の中では、低音部を受け持ちます。

全長は120cm、厚さはヴァイオリンの約2倍、重さは約3.5kg。弓は逆に短く約73cm。ヴィオラの1オクターブ下に調弦され、ヴァイオリンの1オクターブと5度下にあたります。

チェロの音は落ち着いた温かい音色で、「人間の声に一番近い楽器」と言われています。



## ♪ 前回 2023/5/22 「ハープ」いかがでしたか ♪

前半のお話と、後半のお二人による「ハープデュオ ファルファーレコンサート」いかがでしたか。前半のお話を、別紙「ノート」にまとめましたので、この回のふり返りに使って、もう一度「ハープ」をお楽しみください。（事務局スタッフ、田中・滝本作成）

「ハープ」は、マリーアントワネット期の、「優雅」な楽器というだけではなく。その後の作曲家やメーカー、演奏家の努力によって進化し、今から100年くらい前に、今の形に完成された…。古い古い歴史を持つけれども、比較的新しい楽器。

お礼に伺った楽屋では、「皆様とても熱心に聴いてくださって、メモまで取っていただいて…」とおっしゃっていました。



## ～アンケートから～

いつもアンケートにご協力  
ありがとうございます。  
アンケートは一部抜粋したのもの  
もあります。ご了承ください。

ハーブは“オーケストラの楽器の中で一番損な楽器”と思っていました。他の楽器の音にかき消され、目立たないからです。しかし、今日、間近でハーブの音に接し、見事にその先入観が打ち破られました。講師のお二人の衣装もファルファーレで統一され、すてきでした。（鶴谷さま）

\* \* \* \* \*

一部の説明はよかったです。こうした話を聞く機会がなく有難かったです。ただ、手元や足元は前の席の方だけが見えて、中～後列は全く見えないのが残念でした。演奏よかったです。

\* \* \* \* \*

2台のハーブの演奏、とても穏やかで心豊かな気持ちになる時間でした。ハーブは時には木琴（マリンバ）のような、時にはお琴のような～いろいろな響きを持つ楽器なんだなあと思いました。姉妹デュオ、素晴らしいですね。ますますのご活躍を。（藤井さま）

\* \* \* \* \*

ハーブを間近で聴くのは初めてです。美しい音色に圧倒されました。お話とても楽しかったです。

\* \* \* \* \*

ハーブのやさしい音色が心にしみいりました。姉と妹の息がピッタリでしたね。前の方の席だったので足でペダルを踏む動きがとても忙しそうでした。（諸谷さま）

\* \* \* \* \*

初めて何うハーブの歴史を分かりやすく聞かせていただきました。やはり美しいハーブのデュオを堪能！！また聴かせてください。（田中邦彦さま）



ハーブだけの演奏は初めて聴き、美しい音色もあり、また異なった音もあり、一台で打楽器もあり新しい音を聴きました。お話をされてからの演奏は、頭の中に話の内容が浮かんできました。優雅でもあり、弾き方でいろんな表現ができる素敵なものと感じました。

\* \* \* \* \*

心にも耳にも視覚にもやさしく、楽しいコンサートでした。ありがとうございました。ディズニーの世界にも浸り、かわいいバックからは、何が出てくるのかとワクワクしたり、ハーブがこんなにいろいろな世界を作るんだと驚いています。お二人は天使のようでした。

\* \* \* \* \*

ハーブを間近で見たのは、初めてだったので感激しました。ハーブも古い歴史があって進化してきたというお話は興味深かったです。ハーブもいろいろ奏法があることや、ハーブにペダルがついているというのも、初めて知りました。コンサートでは、とても優雅な音色で夢のような時間でした。実際にいろいろな奏法での音色を聴かせていただいて、ハーブの幅の広さと奥の深さを感じました。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

ハーブのソロ演奏を聴きたいと願っていて、今回その機会に恵まれたこと、大変嬉しく思います。大人の音楽教室2年目に実現。詳しくハーブ楽器の説明を受け、形もユニークで上部は波が打ち寄せてくるようで、ゴージャスな感じの楽器を間近に拝見でき、幸せな気持ちになりました。音色も水の中で人魚が奏でているような想像をし、心地よいものでした。メルヘンチックな話を挿入しながらの、姉妹による演奏、空想しながら楽しめました。ハーブ演奏の中でも、高音～低音、低音～高音への指を滑らしながらの音は大好きになりました。



## ♪音楽に関する「ことば」

### 「詩」「文学的成句」

長谷川陽子「チェロの森」より

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」「文学的成句」などを書いていきます。》

バッハは、一日の初めに、ピアノでバッハのプレリュードとフーガを必ず弾いた。「どうして？」と聞かれると「完全で平静なものが必要なんだ。そして完全と美の絶対の理想を、感じさせてくれるのは、バッハしかいない。」と言ったそうだ。長谷川陽子「チェロの森」2010時事通信社刊

長谷川陽子さんは、今や日本を代表するチェリストの一人、故井上頼豊氏（チェリスト）の弟子。京都府民ホールアルティでのコンサートを私も聴いたが、素晴らしく美しく豊かな音色に魅了された事がある。



次回は7月24日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「トロンボーン」 岡本 哲 さん



金管楽器の一種。低音です。  
トロンボーンの特徴は、あのスライドと呼ばれる伸縮管。伸縮させて管の長さを変えることによって、様々な音程を鳴らすことができます。  
得意技は、スライドを利用した「グリッサンド」

お楽しみに!!!



メ モ